

## 【定性的情報・財務諸表等】

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間のわが国経済は、企業の在庫調整が一段落し、一部で景気の回復の動きが見られるものの、円高の進行や個人消費の低迷を背景とした企業業績の悪化など、依然として厳しい状況が続きました。

自動車業界におきましては、昨年の世界的な金融不安による自動車販売の低迷から、回復の兆しが見えてきておりますが、自動車販売の先行きは、依然不透明な状況にあります。

## (1) 売上高

当第2四半期累計期間の連結売上高は、自動車製造用設備の売上が減少したことにより306億5千万円となり、前期に比べ222億7千万円(前年同期比42.1%減)の減収となりました。

これを製品部門別にみますと、軸受製品では110億2千万円(前年同期比40.5%減)、ダイカスト製品では63億3千万円(前年同期比32.2%減)、ガasket製品では42億1千万円(前年同期比30.4%減)、組付製品他では63億2千万円(前年同期比32.0%減)、設備・金型製品では26億6千万円(前年同期比72.1%減)となりました。

## (2) 営業利益

連結営業損失は5億8千万円となり、前年同期に比べ23億8千万円の減益となりました。

## (3) 経常利益

連結経常損失は3億1千万円となり、前年同期に比べ22億円の減益となりました。

## (4) 四半期純利益

連結四半期純損失は11億2千万円となり、前年同期に比べ21億2千万円の減益となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて50億9千万円増加し、369億円9千万円となりました。これは、現金預金が増加したことなどによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べて20億7千万円減少し、520億1千万円となりました。これは、有形固定資産が18億円9千万円減少したことなどによるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度に比べて30億1千万円増加し、890億1千万円となりました。

## (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて7億円2千万円減少し、198億3千万円となりました。これは、未払費用が2億8千万円減少したことなどによるものです。

固定負債は前連結会計年度末に比べて43億3千万円増加し、272億9千万円となりました。これは、長期借入金の増加46億8千万円などによるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度に比べて36億1千万円増加し、471億3千万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて6億円減少し、418億7千万円となりました。これは、利益剰余金が増加し、評価・換算差額等が増加したことなどによるものです。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の自動車業界におきましては、世界的な金融不安を背景とした景気停滞の影響により、先行きは不透明であり、引き続き、事業環境は厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況のもと、平成22年3月期の通期の連結業績予想について、売上高660億円(前期比26.8%減)、営業損失3億5千万円(前期は12億円2千万円の営業損失)、経常利益2億円(前期は13億9千万円の経常損失)、当期純損失8億円(前期は18億1千万円の当期純損失)を予想しております。

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

・法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。